

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	和栗 聡
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人体を構成する細胞・組織・器官の基礎を理解する
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	事前に教科書の該当ページを読んでくること
11. 教科書	解剖学（医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	人体解剖パーフェクト事典（ナツメ社）
13. 推薦参考図書	系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	解剖学概論	解剖学と解剖学用語
2	人体の区分-1	頭部・胸部・腹部
3	人体の区分-2	背部・会陰部・上肢・下肢
4	休講	-
5	細胞-1	細胞膜・核
6	細胞-2	細胞質
7	振り返り授業	※ 総復習
8		前期中間試験
9	振り返り授業	前期中間試験の解説
10	細胞-3	細胞周期・細胞分裂
11	組織-1	上皮・支持組織
12	組織-2	筋組織
13	組織-3	神経組織
14	発生-1	初期発生
15	発生-2	器官発生
16	器官と器官系	器官系
17		前期期末試験
18	振り返り授業	前期期末試験の解説
19	振り返り授業	※ 総復習
20	振り返り授業	※ 総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組みII
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	植村武文、田村直輝、荒井律子、鈴木倫毅
7. 授業形式	講義スライドや教科書、または板書しながら説明する。
8. 授業の目標	各臓器の構造と機能を簡単に説明できる。当該科目に関連する国家試験問題について75%以上正答できる。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	解剖学は医学の基礎となる学問です。その語句や概念を覚え理解することは、様々な応用につながると共に、この分野で仕事をするためには不可欠です。毎回の講義前には教
11. 教科書	「解剖学 第2版」岸清・石塚寛編 医歯薬出版
12. 副読本	「人体解剖学パーフェクト辞典 伊藤正裕・中村陽市 監修 ナツメ社
13. 推薦参考図書	「ネッター解剖学アトラス 第5版」F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	骨格系総論	人体の運動における呼称（運動の形、関節運動の表示）
2	骨格系総論	骨の数、骨の役割、骨の形状による分類
3	骨格系総論	骨の構造（骨基質と細胞成分）、骨層板の構造、骨の力学的構築
4	骨格系総論	骨の連結の分類、関節の基本構造、関節の補助装置、関節の分類
5	骨格系各論	脊柱と胸郭：椎骨の数、椎骨の基本形態、頸椎の基本形態、環椎と軸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨
6	骨格系各論	脊柱と胸郭：脊柱の靭帯、椎間円板、椎間関節、脊柱の弯曲、頸部の関節
7	骨格系各論	脊柱と胸郭：脊柱の弯曲、頸部の関節、骨性胸郭（胸骨と肋骨）、骨盤
8	振り返り授業	※ 総復習
9		前期中間試験
10	振り返り授業	前期中間試験の解説
11	骨格系各論	上肢骨：橈骨、尺骨、肘関節
12	骨格系各論	上肢骨：手の骨（手根骨、中手骨・指骨） 手根の関節：橈骨手根関節、手根中央関節、手根間関節、豆状骨関節
13	骨格系各論	下肢骨：大腿骨、下肢帯の連結（恥骨結合、仙腸関節）、寛骨内部を結合する靭帯、大坐骨孔と小坐骨孔
14	骨格系各論	下肢骨：足根骨・中足骨・趾骨
15	骨格系各論	頭蓋骨：脳頭蓋と顔面頭蓋、後頭骨・蝶形骨・側頭骨・頭頂骨
16	骨格系各論	頭蓋骨：前頭骨・篩骨・下鼻甲介・涙骨・鼻骨・鋤骨
17	振り返り授業	※ 総復習
18		前期期末試験
19	振り返り授業	前期末試験の解説
20	振り返り授業	※ 総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第 1 学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 タブレット P C ・プロジェクター使用
8. 授業の目標	生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。 目標：専門基礎分野の『生理学』の神経、筋に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』改訂第 4 版 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		生理学とは
2	1 章 生理学とは	細胞の構造と機能（細胞膜・核）
3	1 章 生理学とは	細胞の構造と機能（染色体と遺伝・細胞内小器官） 組織・器官と生体の機能系（組織・器官系・その他）
4	1 章 生理学とは	生体の恒常性と統合機能（生体の恒常性・フィードバック） 体液の区分と組成（区分と水バランス・イオン組成）
5	3 章 神経の生理	神経信号の伝達（神経系の構成要素・静止膜電位・活動電位）
6	3 章 神経の生理	神経信号の伝達（シナプスにおける興奮伝達・神経伝達物質と受容体）
①	振り返り授業	※ 総復習
7		前期中間試験および解説
②	振り返り授業	前期中間試験の解説
8	3 章 神経の生理	神経系の構成（中枢神経系・末梢神経系） 脳の高次機能（脳の構造・大脳皮質の機能局在・連合野）
9	3 章 神経の生理	脳の高次機能（睡眠と覚醒・脳波でみる睡眠・学習と記憶）
10	3 章 神経の生理	内臓機能の調節（自律神経とは・交感神経と副交感神経・構成）
11	3 章 神経の生理	内臓機能の調節（自律神経系による調節・反射のレベル）
12	2 章 筋肉の生理	骨格筋（骨格筋の構造・骨格筋の収縮と弛緩）
13	2 章 筋肉の生理	骨格筋（骨格筋と張力の関係・筋電図）

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	本間俊作、植村武文、田村直輝、鈴木倫毅
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌組織について、構造の概略を理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	事前に、教科書の該当するページを読んでくること。
11. 教科書	解剖学、柔道整復師協会編、医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		内蔵系総論
2	呼吸器系 (1)	呼吸器総論・鼻腔・喉頭・声帯・気管・気管支 (177ページから182ページ)
3	呼吸器系 (2)	肺・肺胞・胸膜・縦隔(182ページから186ページ)
4	生殖器系 (1)	男性生殖器 (精巣・精管・精囊・前立腺・陰茎) (192ページから197ページ)
5	生殖器系 (2)	女性生殖器 (卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部) (197ページから201ページ)
6	生殖器系 (3)	会陰・性周期・妊娠と胎盤 (201ページから205ページ)
7	統合教育科目Ⅰ	※ 総復習
8		前期中間試験
9	統合教育科目Ⅰ	前期中間試験の解説
10	消化器系 (1)	口腔・唾液腺・舌・咽頭・食道(157ページから165ページ)
11	消化器系 (2)	胃・小腸・大腸・肛門(165ページから182ページ)
12	消化器系 (3)	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜(186ページから177ページ)
13	腎臓	腎臓(186ページから190ページ)
14	尿管・膀胱・尿道	尿管・膀胱・尿道(190ページから192ページ)
15	内分泌系 (1)	内分泌系総論・下垂体・松果体(207ページから210ページ)
16	内分泌系 (2)	甲状腺・膵ランゲルハンス島・副腎(211ページから215ページ)
17		前期期末試験
18	統合教育科目Ⅰ	前期期末試験の解説
19	統合教育科目Ⅰ	※ 総復習
20	振り返り授業	※ 総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎科目
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津慶子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力をつける。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書（ときに解剖の教科書も含む）を必ず持参すること。
11. 教科書	生理学 改訂第4版 （南江堂）
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	人体の正常構造と機能 （日本医事新報社）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	12 尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能（解剖学を含む）
2		尿の生成
3		尿細管での再吸収 腎血流量
4		排尿
5	13 栄養と代謝	生体に必要な栄養素
6		
7		中間試験
8	14 消化と吸収	消化器系の構成と働き（解剖学を含む）～消化管運動
9		消化液の分泌と調節
10		食物（栄養素）の消化と吸収
11		
12		
13	13 栄養と代謝	エネルギー代謝
14		食物と栄養
15		前期期末試験

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅰ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	3単位
6. 担当講師	本間俊作、濱津慶子、小俣純一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、中間試験、期末試験、レポート課題などで総合評価とする。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	「解剖学 第2版」岸清・石塚寛編 医歯薬出版、生理学 改訂第4版 南江堂
12. 副読本	「ネッター解剖学アトラス 第5版」F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂 いちばんやさしい生理学 成美堂出版
13. 推薦参考図書	「入門人体解剖学 第5版」藤田恒夫著 南江堂 カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
4月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
5月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
6月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習 前期中間試験
7月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
8月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習 前期期末試験
9月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
10月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
11月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習 後期中間試験
12月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
1月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習
2月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習 後期期末試験
3月	人体の構造と機能	各分野におけるまとめと復習

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ①
2. 科目分類	専門基礎科目
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目Ⅱ（①②③④）4単位
6. 担当講師	濱津慶子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力をつける。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書（解剖学を含む）を必ず持参する。
11. 教科書	生理学 改訂第4版 （南江堂）
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	人体の正常構造と機能（日本医事新報社）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	13 栄養と代謝	エネルギー代謝
2	15 体温とその調節	体温 熱産生
3		熱放散（皮膚の解剖・自律神経系を含む）
4		体温調節（上行性伝導路・内分泌を含む）
5		機構馴化 発熱とうつ熱
6	16 高齢者の生理学的特徴・変化	細胞・組織の加齢現象（解剖学を含む）
7		高齢者の生理的特徴（骨・筋・神経）
8		高齢者の生理的特徴（感覚器）
9		高齢者の生理的特徴（内臓）
10		フレイル 運動と加齢
11	17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	成長に伴うからだや運動能力の発達
12		小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 オーバートレーニング
13		トレーニングによる適応的变化
14		姿勢制御
15		定期試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	病理学概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島直子
7. 授業形式	作製したプリントと教科書を中心に進める。iPadを持参すること。
8. 授業の目標	次年度の国試に全員合格できるような授業を目指す。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。丸暗記でなく仕組みを理解するように心がける。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
2	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
3	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
4	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
5	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
6	第4章	循環障害
7	統合教育科目Ⅲ	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅲ	前期中間試験の解説
10	第4章	循環障害
11	第4章	循環障害
12	第4章	循環障害
13	第4章	循環障害
14	第4章	循環障害
15	第3章	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
16	第3章	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
17	統合教育科目Ⅲ	総復習
18	統合教育科目Ⅲ	総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅲ	前期末試験の復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	リハビリテーション医学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小俣 純一
7. 授業形式	講義を中心に実施する。資料は毎講義前に配布するので、予習を実施すること。また、グループでの演習を実施して、その結果を発表してもらう。
8. 授業の目標	臨床で関わることが多いリハビリテーション医学の知識や考え方について十分に理解して、チーム医療の一端を担える専門職として活躍するための基盤を作ることを目標とする。また、国家試験受験に必要な知識も理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	わからない部分等は、積極的に質問等で理解するように努めること。
11. 教科書	公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 改訂第4版
12. 副読本	リハビリテーション医学・医療コアテキスト準拠 リハビリテーション医学・医療Q&A
13. 推薦参考図書	リハビリテーション医学・医療コアテキスト準拠 リハビリテーション医学・医療Q&A

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	総論	理論・対象と障害者の実態・関連職種・治療技術
2	障害の階層とアプローチ1	症例を用いてICF・ICIDHの分類およびアプローチのプランニング演習
3	障害の階層とアプローチ2	ICF・ICIDHの分類およびアプローチのプランニング演習結果の発表
4	リハビリテーション評価1	評価の総論
5	リハビリテーション評価2	関節可動域、徒手筋力測定、日常生活評価 等
6	リハビリテーション評価3	運動失調、神経系の評価 等
7	統合教育科目Ⅲ	※ 総復習
8		前期中間試験
9	統合教育科目Ⅲ	前期中間試験の解説
10	障害と治療1	障害の総論（関節拘縮、変形、筋委縮、麻痺 等）
11	障害と治療2	障害に対する治療の概要
12	運動器1	フレイル等、骨粗鬆症、骨折、捻挫、腰痛
13	運動器2	上肢
14	運動器3	下肢
15	脳卒中1	分類と特徴、障害
16	脳卒中2	リハビリテーション
17		前期期末試験
18	統合教育科目Ⅲ	前期期末試験の解説
19	統合教育科目Ⅲ	※ 総復習
20	振り返り授業	※ 総復習

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	3単位
6. 担当講師	飯島直子、小俣純一、関根英治、大和宣介、金内洋一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、中間試験、期末試験、レポート課題などで総合評価とする。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	『外科学概論』改訂第4版（南江堂）、『一般臨床医学』医歯薬出版株式会社、 『病理学概論』 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版、『整形外科 学』南江堂
12. 副読本	『標準整形外科学』医学書院
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
4月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
5月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
6月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習 前期中間試験
7月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
8月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習 前期期末試験
9月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
10月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
11月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習 後期中間試験
12月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
1月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習
2月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習 後期期末試験
3月	疾病と傷害	各分野におけるまとめと復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ①
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目Ⅳ（①②） 2単位
6. 担当講師	関根 英治 永福 智志
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	内科疾患の病態生理の理解と国試対策
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	積極的に質問して理解することにより、わからないままにしない。
11. 教科書	医歯薬出版株式会社 一般臨床医学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		消化器② 【関根】
2		内分泌② 副甲状腺、副腎疾患 【永福】
3		肝・胆・膵② 【関根】
4		腎① 腎不全 【永福】
5		呼吸器③ 自然気胸、緊張性気胸 【関根】
6		腎② ネフローゼ 急性糸球体腎炎 慢性糸球体腎炎 【永福】
7		感染症① 細菌感染症 【関根】
8		代謝・栄養疾患 糖尿病、高脂血症、痛風 【永福】
9		感染症② ウイルス感染症 【関根】
10		神経疾患③ 機能的疾患 【永福】
11		血液② 白血病 紫斑病 血友病 【関根】
12		神経疾患④ 神経変性疾患 【永福】
13		総復習 【関根】
14		神経疾患⑤ 炎症性疾患他 【永福】
15		前期期末試験
16	振り返り授業	前期期末試験の解説【関根】
17	振り返り授業	総復習
18	振り返り授業	総復習
19	振り返り授業	総復習
20	振り返り授業	総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ②
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目Ⅳ（①②） 2単位
6. 担当講師	大和宣介
7. 授業形式	講義形式の一般授業
8. 授業の目標	外科学全般の理解
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業で配布する練習問題、黒板（ホワイトボード）のノートを復習して下さい。
11. 教科書	外科学概論（改訂第4版） 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	1 章	損傷
2	2 章	炎症と外科感染症
3	3 章	腫瘍
4	4 章	ショック
5	5 章～6 章	輸血輸液、消毒滅菌
6	7 章～8 章	手術、麻酔
7	9 章～10 章	移植免疫、出血止血
8	11 章	心肺蘇生法
9	12 章	脳神経外科疾患
10	13 章～14 章	甲状腺頸部、胸壁呼吸器疾患
11	15 章～16 章	心臓脈管疾患、乳腺疾患
12	17 章	腹部外科疾患
13	1 章～17 章	総合復習
14	1 章～17 章	総合復習
15		前期期末試験
16	振り返り授業	前期期末試験の解説
17	振り返り授業	国家試験予想問題①（1 章～7章）
18	振り返り授業	国家試験予想問題②（8 章～12 章）
19	振り返り授業	国家試験予想問題③（13章～17章）
20	振り返り授業	国家試験予想問題④（全章）

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	保健医療福祉
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	國分 美和子
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。また、国家試験を視野に国家試験形式の問題に対応できるようにする。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版（南江堂）
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 2021/2022（厚生統計協会）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第16章 疫 学	疾病の要因や原因の究明を目的とした調査の基本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。
2	第3章 疾病予防と健康管理	健康から疾病が発病するまでの経過を知ることにより、その段階に合わせた予防の基本的な考え方や手法を把握する。
3	第8章	乳児・幼児における健康状況は母体の健康状態が深く影響する。そこで、母子の健康指標と現状、母子保健対策や母子保健法について把握する。
4	母子保健	
5	第9章	学童期においては心身ともに著しく発達する時期であり、学校は学校教育の特有の場であることを踏まえ、学校教育法・学校保健安全法、学校保健活動の内容と組織、学童期の健康状況を把握する。
6	学校保健	
7	第10章	労働者は特殊な作業環境に置かれる場合も少なくない。その作業環境の影響による種々の職業病罹患の危険性にさらされている。そこで、職業病の概略と現状、労働安全衛生法、産業保健対策について把握する。
8	産業保健	
9	第2章	集団の健康を把握するための健康指標とその意味、および現状を把握する。
10	健康の概念（中項目D）	
11	第11章 成人・高齢者保健	人口の高齢化に伴い、成人・高齢者の生活習慣病の発症が医療費増大や介護など社会問題の原因となっている。そこで、生活習慣病の現状と予防、さらに老後のQOLを向上させるための高齢者保健・福祉対策について把握する。合わせて医療保険制度（国民医療費の動向を含む）や介護保険制度についても把握する。
12	第14章 衛生行政と保健	
13	医療の制度	
14	第12章 精神保健	精神障害者を社会から隔離する傾向にあったが、人権を尊重し、社会復帰できる体制へと方向転換されてきた。精神障害（精神の病気）の概略と現状、精神保健・福祉対策について把握する。
15		前期定期試験
16	第13章 地域保健と国際保健	日本国内の地域における保健活動の取り組みの基本的な考え方、および世界レベルでの環境保全、保健医療での協力の概略について把握する。
17	第15章 医療の倫理と安全の確保	医療関係者としてあるべき姿、必要となる倫理観、医療における安全性を確保するための対策の基本について把握する。
18	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。
19	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。
20	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	関係法規※実務経験のある教員の授業科目（接骨院11年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白 江 誠
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	関係法規を理解し国家試験及び卒後役立つように理解すること
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書をしっかり読む。遅刻・欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	『関係法規』『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	序論	1. 法の意義 2. 法の体系 3. 柔道整復師及び柔道整復に関する法規 4. 柔道整復患者の権利 5. 医療過誤とリスクマネジメント
2	第1章 総則、第2章 免許	1. 柔道整復師法の目的 2. 定義 1. 柔道整復師免許 2. 免許を受けるための要件 3. 免許の申請
3	第2章 免許	4. 柔道整復師名簿 5. 免許の取消し 6. 柔道整復師免許証及び柔道整復師免許証明書 7. 免許の書き換え交付
4	第2章 免許 第3章 柔道整復師国家試験 第4章 業務	8. 免許証の再交付 9. 免許証又は免許証明書の返納及び提出 1. 試験の実施 2. 合格証書と合格証明書 1. 業務の禁止
5	第4章 業務	2. 業務の範囲 3. 秘密を守る義務 4. 都道府県知事の指示 5. 緊急時における厚生労働大臣の事務執行
6	第5章 施術所	1. 施術所の届出 2. 施術証の構造設備等 3. 施術所に対する監督
7	第6章 雑則 第7章	1. 広告 1. 罪刑法定主義
8	第7章 罰則 第8章 指定試験機関及び指定	2. 柔道整復師法に定められる罰則 3. 両罰規定 1. 指定登録機関 2. 指定試験機関
9	関係法規	1. 医師法 2. 歯科医師法 3. 保健師助産師看護師法
10	関係法規	4. 診療放射線技師法 5. 臨床検査技師等に関する法律 6. 理学療法士及び作業療法士法
11	関係法規、医療法	11. 救急救命士法 12. 歯科衛生士法 13. 歯科技工士法 14. 薬剤師法 1. 総則 2. 医療に関する選択の支援等 3. 医療安全の確保
12	医療法	4. 病院、診療所及び助産所
13	社会福祉関係法規 社会保険関係法	1. 社会福祉法 2. 生活保護法 3. 児童福祉法 4. 身体障害者福祉法 5. 知的障害者福祉法 6. 老人福祉法 7. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 1. 健康保険法
14	社会保険関係法規 その他の関係法規	2. 国民健康保険法 3. 高齢者の医療の確保に関する法律 4. 介護保険法 1. 個人情報保護に関する法律
15	振り返り授業	
16	振り返り授業	
17		前期期末試験
18	振り返り授業	前期期末試験の解説
19	振り返り授業	
20	振り返り授業	

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院5年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木孝行
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	講道館柔道における『立技』『寝技』の習得，投の形の理解
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（授業態度など）含めて総合的に評価する。
10. 受講上の注意	私語、集団行動を乱すことを禁じる。
11. 教科書	授業内で配布する資料
12. 副読本	柔道Ⅰ
13. 推薦参考図書	講道館『投の形』のDVD

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	基礎確認	回転運動，補強運動，受け身
2	基礎確認	受け身，打込み，投込み，寝技
3	立技応用	立技（左右）足技など
4	寝技応用	固め技，極め技など
5	立技・寝技応用	乱取り形式の説明と実践
6	総合稽古	各乱取り形式
7	総合稽古	各乱取り形式
8	振り返り授業	※ 総復習
9		前期中間試験
10	振り返り授業	前期中間試験の解説
11	投の形	手技：浮き落
12	投の形	手技：背負投げ
13	投の形	腰技：浮き腰
14	投の形	腰技：払い腰
15	投の形	足技：送り足払い
16	投の形	足技：支え釣り込み足
17	振り返り授業	※ 総復習
18		前期期末試験
19	振り返り授業	前期期末試験の解説
20	振り返り授業	※ 総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院6年勤務）
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	認定実技審査 柔道実技を習得する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	素早く着替え、準備運動を行うこと。怪我に繋がる為、真剣に取り組むこと
11. 教科書	
12. 副読本	認定実技審査要項
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	形、受け身の復習	前方回転受け身、浮落、背負投、浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習1
2		前方回転受け身、浮落、背負投、浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習2
3	投の形の習得	受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得1
4		受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得2
5		受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得3
6		受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得4
7	約束乱取りの復習	前方回転受け身、形の復習、約束乱取りの習得1
8		前方回転受け身、形の復習、約束乱取りの習得2
9		前方回転受け身、形の復習、約束乱取りの習得3
10	認定実技審査項目の習得	審査概要の説明と全体練習
11		全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）1
12		全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）2
13		全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）3
14		全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）4
15		前期末試験
16	認定実技審査項目の習得	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）5
17		全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）6
18	柔道について	柔道の概要（発祥からルールまで）1
19		柔道の概要（発祥からルールまで）2
20		

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道整復術の適応
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	加藤、金内、亀田、川原田、小林（洋）、小林（良） 佐藤（俊）、佐藤（亮）、新田
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	多くの臨床症例を教科書と比較しながら理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語を慎む
11. 教科書	施術の適応と医用画像の理解 医療の中の柔道整復師
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	6 スポーツ整形外科総論	発育期のスポーツ障害
2	6 スポーツ整形外科総論	成人期のスポーツ障害
3	8 疾患別各論	骨腫瘍・骨腫瘍関連疾患
4	9 身体部位別各論	手の外科
5	8 疾患別各論	軟部腫瘍
6	9 身体部位別各論	腰椎外傷（腰椎・腰髄損傷）
7	9 身体部位別各論	頸椎変性疾患
8	9 身体部位別各論	腰椎変性疾患
9	5 骨・関節損傷総論	下肢の骨折
10	9 身体部位別各論	頸椎外傷（頸椎・頸髄損傷）
11	9 身体部位別各論	肩関節疾患
12	9 身体部位別各論	重度四肢外傷
13	5 骨・関節損傷総論	上肢の骨折
14	9 身体部位別各論	足・足関節疾患
15	9 身体部位別各論	股関節疾患
16	まとめ・復習	まとめ・復習
17	まとめ・復習	まとめ・復習
18		前期末試験
19	定期試験解説	定期試験解説
20	総まとめ	総まとめ

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	志田龍太
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	外傷学習に臨むための基礎知識確立
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価
10. 受講上の注意	
11. 教科書	解剖学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション/解剖学用語
2		骨の基礎知識
3		〃
4		〃
5		骨の名称
6		〃
7	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
10		関節の基礎知識
11		〃
12		上下肢の関節
13		〃
14		〃
15		各関節の運動
16		〃
17		〃
18	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
19	統合教育科目Ⅵ	前期末試験
20	統合教育科目Ⅵ	前期末試験の解説

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院11年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白江 誠
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	講義を理解できるよう積極的に質問する
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書をしっかり読む。遅刻・欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	解剖学 全国柔道整復学校協会監修
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第2章 総論	授業の進め方等のオリエンテーション
2	第2章 総論	骨学
3	第2章 総論	骨学
4	第2章 総論	骨の性状における分類、骨損傷の程度による分類、骨折線の方法による分類
5	第2章 総論	骨折と創部との交通の有無による分類、骨折の数、外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類
6	第2章 総論	外力の働き方による分類、骨折の部位による分類
7	第2章 総論	骨折の局所症状、骨折の固有症状
8	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
9		前期中間試験
10	統合教育科目Ⅵ	前期中間試験の解説
11	第2章 総論	骨折の全身症状、合併症(併発症)
12	第2章 総論	合併症（続発症）
13	第2章 総論	合併症（後遺症）
14	第2章 総論	小児骨折、高齢者の骨折
15	第2章 総論	骨折の癒合日数、骨折の治癒過程
16	第2章 総論	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子
17	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
18		前期期末試験
19	統合教育科目Ⅵ	前期期末試験の解説
20	振り返り授業	※ 総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	関節の構造と脱臼・軟部組織損傷の総論を理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、指示以外のスマートフォン・ipad操作厳禁（周囲に迷惑をかける事）
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	関節の損傷	A. 関節の構造と機能
2	関節の損傷	B. 関節損傷の概説 C. 関節損傷の分類 D. 鑑別診断を要する類症
3	関節の損傷	E. 脱臼
4	関節の損傷	E. 脱臼
5	関節の損傷	E. 脱臼
6	関節の損傷	F. 関節構成組織損傷
7	関節の損傷	F. 関節構成組織損傷
8	統合教育科目Ⅵ①	※ 総復習
9		前期中間試験および解説
10	統合教育科目Ⅵ②	前期中間試験の解説
11	筋の損傷	A. 筋の構造と機能 B. 筋損傷の概説 C. 筋損傷の分類
12	筋の損傷	D. 筋損傷の症状 E. 筋損傷の治癒機序 F. 筋損傷の予後
13	腱の損傷	A. 腱の構造と機能 B. 腱損傷の概説 C. 腱損傷の分類
14	腱の損傷	D. 腱損傷の症状 E. 腱損傷の治癒機序
15	末梢神経損傷	A. 神経の構造と機能 B. 神経損傷の概説 C. 神経損傷の分類
16	末梢神経損傷	D. 末梢神経損傷の症状 E. 末梢神経損傷の治癒過程
17	統合教育科目Ⅵ③	※ 総復習
18		前期期末試験
19	統合教育科目Ⅵ④	前期期末試験の解説
20	統合教育科目Ⅵ④	前期範囲の復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院・介護施設6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	橋本 沙織
7. 授業形式	講義形式（前回授業の小テスト実施）
8. 授業の目標	柔道整復師業務を行う上で必要な治療法と外傷予防の知識の理解
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り厳禁。教科書中心の授業のため教科書を忘れずに持参すること。
11. 教科書	『柔道整復学・理論編』 公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2	治療法	後療法（用量、患者の準備、手技療法）
3		後療法（運動療法）
4		後療法（運動療法②）
5		後療法（物理療法）
6		後療法（物理療法②）
7		後療法復習
8		試験前確認
9		中間試験
10		試験解説
11	治療法	指導管理（患者とその環境の把握、患者の環境に対する指導管理）
12		指導管理（患者の環境に対する指導管理②、自己管理に対する指導）
13	外傷予防	第一段階（運動機能向上と教育活動）
14		第一段階（運動機能向上と教育活動②）
15		第一段階（特異的予防）
16		第二、三段階
17		試験前確認
18		前期期末試験
19		試験解説
20		総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅴ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	柔理総論および上肢骨折、上肢脱臼、上肢軟損の理解を深める
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、忘れ物はしないこと
11. 教科書	柔道整復学（理論編・実技編）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	沿革	概要説明、（柔道整復術および柔道整復師の沿革）
2	総論	柔道整復理論・総論（骨折、脱臼、軟損）①
3		柔道整復理論・総論（骨折、脱臼、軟損）②
4		柔道整復理論・総論（骨折、脱臼、軟損）③
5	各論（骨折）	柔道整復理論・各論（上肢骨折）①
6		柔道整復理論・各論（上肢骨折）②
7		柔道整復理論・各論（上肢骨折）③
8		復習
9		中間試験
10		復習
11	各論（脱臼）	柔道整復理論・各論（上肢脱臼）①
12		柔道整復理論・各論（上肢脱臼）②
13		柔道整復理論・各論（上肢脱臼）③
14	各論（軟損）	柔道整復理論・各論（上肢軟損）①
15		柔道整復理論・各論（上肢軟損）②
16		柔道整復理論・各論（上肢軟損）③
17		復習
18		前期期末試験
19		復習
20		復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅵ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務、接骨院11年勤務、接骨院3年勤務、接骨院・介護施設6年）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	志田龍太、白江誠、伊東秀高、橋本沙織
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	柔道整復理論の知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、中間試験、期末試験、レポート課題などで総合評価とする。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編、標準整形外科学
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	統合教育科目Ⅵ	骨、関節基礎知識、体幹の骨、上肢の骨の総復習
2	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
3	統合教育科目Ⅵ	柔道整復師の業務範囲、診察法および施術録の扱い、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷初期処置の総復習
4	統合教育科目Ⅵ	関節の構造と機能、関節損傷、関節構成組織損傷の総復習
5	統合教育科目Ⅵ	骨、関節基礎知識、体幹の骨、上肢の骨の総復習
6	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
7	統合教育科目Ⅵ	柔道整復師の業務範囲、診察法および施術録の扱い、骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷初期処置の総復習
8	統合教育科目Ⅵ	関節の構造と機能、関節損傷、関節構成組織損傷の総復習
9	統合教育科目Ⅵ	全身の骨、上肢・下肢の関節、各関節の運動の総復習
10	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
11	統合教育科目Ⅵ	固定法、手技療法、運動療法、物理療法、診察法、治療法の総復習
12	統合教育科目Ⅵ	関節損傷、関節構成組織損傷、脱臼、筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷の総復習
13	統合教育科目Ⅵ	全身の骨、上肢・下肢の関節、各関節の運動の総復習
14	統合教育科目Ⅵ	骨折総論総復習
15	統合教育科目Ⅵ	固定法、手技療法、運動療法、物理療法、診察法、治療法の総復習
16	統合教育科目Ⅵ	関節損傷、関節構成組織損傷、脱臼、筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷の総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	上肢の軟部組織損傷を理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、指示以外のスマートフォン・ipad操作厳禁（周囲に迷惑をかける事）
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	肩関節部の軟部組織損傷	肩関節部の解剖と機能、筋・腱の損傷
2	肩関節部の軟部組織損傷	肩関節部の解剖と機能、筋・腱の損傷
3	肩関節部の軟部組織損傷	スポーツ損傷
4	肩関節部の軟部組織損傷	スポーツ損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷	不安定症、末梢神経障害、その他の疾患
6	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の解剖と機能
7	上腕部の軟部組織損傷	橈骨神経損傷、尺骨神経損傷
8	統合教育科目Ⅷ	総復習
9		前期中間試験および解説
10	統合教育科目Ⅷ	前期中間試験の解説
11	肘関節部の軟部組織損傷	肘関節部の解剖と機能、靱帯の損傷、野球肘
12	肘関節部の軟部組織損傷	野球肘、テニス肘、その他の疾患
13	前腕部の軟部組織損傷	前腕部の解剖と機能、前腕コンパートメント症候群
14	前腕部の軟部組織損傷	腱交叉症候群、末梢神経損傷
15	手関節部の軟部組織損傷	手関節部の解剖と機能、三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病
16	手関節部の軟部組織損傷	末梢神経障害、キーンバック病、マーデルング変形
17	統合教育科目Ⅷ	手指部の解剖と機能、軟部組織損傷
18		前期末試験
19	統合教育科目Ⅷ	前期末試験の復習
20	統合教育科目Ⅷ	総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅴ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	筋の起始、停止を図で覚え、筋の作用による骨片転位を理解させる。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	わからないことは、その時、その場で聞くように。
11. 教科書	柔道整復学・理論編 社団法人柔道整復学校協会・教科書委員会編集（南江堂）
12. 副読本	柔道整復学・実技編（南江堂） ・ 標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	分冊解剖学アトラス（東京分光堂本郷） ・ 身体運動の機能解剖学（医道の日本社）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	ガイダンス・骨盤骨骨折	○解剖学・分類・発生機序・症状・合併症について
2	骨盤骨骨折	〃
3	骨盤骨骨折	〃
4	大腿骨近位端部骨折	〃
5	大腿骨近位端部骨折	〃
6	大腿骨近位端部骨折	〃
7	大腿骨近位端部骨折	〃
8	統合教育科目	☆骨盤骨骨折・大腿骨近位端部骨折 まとめ
9		中間試験
10	統合教育科目	復習
11	足根骨骨折	○解剖学・分類・発生機序・症状・合併症について
12	足根骨骨折	〃
13	趾骨骨折	〃
14	趾骨骨折	〃
15	下腿骨遠位端部骨折	〃
16	下腿骨遠位端部骨折	〃
17	統合教育科目	☆足根骨骨折・趾骨骨折・下腿骨遠位端部骨折 まとめ
18		前期期末試験
19	統合教育科目	復習
20	統合教育科目	下肢骨折

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学VI※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	金子 和央
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	下肢の脱臼および軟部組織損傷について理解する。また、国家試験に準じて主要な範囲を理解する。
9. 成績評価	期末試験成績で評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、許可なく携帯電話等の電子機器の操作は厳禁。
11. 教科書	柔道整復学・理論編 改訂第6版
12. 副読本	柔道整復学・実技編 改訂第2版、解剖学 改訂第2版
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	授業に関する説明	
2	股関節脱臼	
3	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	
4	足部の脱臼、股関節軟損傷①	足根骨脱臼から趾節間関節脱臼、鼠径部痛症候群から梨状筋症候群まで
5	股関節軟損傷②	股関節外転位拘縮～変形性股関節症
6	大腿部軟損傷	大腿部軟損傷
7	膝関節軟損①	半月板損傷、側副靱帯損傷
8		中間試験の説明および復習①
9		前期中間試験
10	膝関節軟損②	十字靱帯損傷、発育期の膝関節障害
11	膝関節軟損③	腸脛靱帯炎から伏在神経麻痺
12	膝関節軟損④	注意する疾患、中高年にみられる疾患
13	下腿部軟損	アキレス腱断裂からコンパートメント症候群
14	足関節部軟損傷①	足関節捻挫
15	足関節部軟損傷②	足関節捻挫の類症鑑別から三角骨障害
16	足関節部軟損傷③	扁平足障害、足・足趾部軟損傷
17		期末試験の説明および復習
18		前期期末試験
19	ふり返し学習	
20	ふり返し学習	

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅷ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務、接骨院8年勤務、接骨院3年勤務、接骨院11年勤務、接骨院3年勤務、接骨院17年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	伊東秀高、齊藤慎吾、金子和央、白江誠、志田龍太、竹沢潤
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、中間試験、期末試験、レポート課題などで総合評価とする。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編 社団法人柔道整復学校協会・教科書委員会編集（南江堂）
12. 副読本	柔道整復学・実技編（南江堂）、標準整形外科学（医学書院）、解剖学（南江堂）
13. 推薦参考図書	分冊解剖学アトラス（東京分光堂本郷）・身体運動の機能解剖学（医道の日本社）

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
4月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
5月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
6月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習 前期中間試験
7月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
8月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習 前期期末試験
9月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
10月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
11月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習 後期中間試験
12月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
1月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習
2月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習 後期期末試験
3月	臨床柔整学	各分野におけるまとめと復習

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目IX①※実務経験のある教員の授業科目（接骨院9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目IX（①②③④⑤⑥）6単位
6. 担当講師	田村 努
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	柔道整復理論の総復習
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	演習問題を事前にFormsにて配信します。授業実施前に必ず、回答し返信すること。
11. 教科書	【柔道整復学・理論編】南江堂、【柔道整復学・実技編】南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	演習	演習問題1回目
2	演習	演習問題2回目
3	演習	演習問題3回目
4	演習	演習問題4回目
5	演習	演習問題5回目
6	演習	演習問題6回目
7	演習	演習問題7回目
8	演習	演習問題8回目
9	演習	演習問題9回目
10	演習	演習問題10回目
11	演習	演習問題11回目
12	演習	演習問題12回目
13	演習	演習問題13回目
14	演習	演習問題14回目
15	演習	演習問題15回目
16	演習	演習問題16回目
17	演習	演習問題17回目
18		定期試験
19	演習	演習問題18回目
20	演習	演習問題19回目

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目IX②※実務経験のある教員の授業科目（接骨院・介護施設6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目IX（①②③④⑤⑥）6単位
6. 担当講師	橋本 沙織
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	1・2年生で履修した範囲の復習、国家試験対策
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り厳禁。1回の講義で必ず1つは確実に覚えることを目標に取り組む。
11. 教科書	『解剖学』 公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版 『生理学』 公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	ネッター解剖学アトラス

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		各分野におけるまとめと復習
2		各分野におけるまとめと復習
3		各分野におけるまとめと復習
4		各分野におけるまとめと復習
5		各分野におけるまとめと復習
6		各分野におけるまとめと復習
7		各分野におけるまとめと復習
8		各分野におけるまとめと復習
9		各分野におけるまとめと復習
10		各分野におけるまとめと復習
11		各分野におけるまとめと復習
12		各分野におけるまとめと復習
13		各分野におけるまとめと復習
14		各分野におけるまとめと復習
15		各分野におけるまとめと復習
16		各分野におけるまとめと復習
17		総復習
18		定期試験
19		試験解説
20		各分野におけるまとめと復習

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅸ③※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目Ⅸ（①②③④⑤⑥） 6単位
6. 担当講師	志田 龍太
7. 授業形式	講義形式、練習問題および解説
8. 授業の目標	2学年時までの履修範囲の再確認・知識の確立
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復理論&柔道整復実技
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		講義形式、練習問題、解説
2		講義形式、練習問題、解説
3		講義形式、練習問題、解説
4		講義形式、練習問題、解説
5		講義形式、練習問題、解説
6		講義形式、練習問題、解説
7		講義形式、練習問題、解説
8		講義形式、練習問題、解説
9		講義形式、練習問題、解説
10		講義形式、練習問題、解説
11		講義形式、練習問題、解説
12		講義形式、練習問題、解説
13		講義形式、練習問題、解説
14		講義形式、練習問題、解説
15		期末試験

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目IX④※実務経験のある教員の授業科目（接骨院9年勤務、接骨院・介護施設6年、接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	統合教育科目IX（①②③④⑤⑥） 6単位
6. 担当講師	田村努、橋本沙織、志田 龍太
7. 授業形式	講義形式、練習問題および解説
8. 授業の目標	2学年時までの履修範囲の再確認・知識の確立
9. 成績評価	後期定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復理論&柔道整復実技
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		各分野のまとめと復習
2		各分野のまとめと復習
3		各分野のまとめと復習
4		各分野のまとめと復習
5		各分野のまとめと復習
6		各分野のまとめと復習
7		各分野のまとめと復習
8		各分野のまとめと復習
9		各分野のまとめと復習
10		各分野のまとめと復習
11		各分野のまとめと復習
12		各分野のまとめと復習
13		各分野のまとめと復習
14		各分野のまとめと復習
15		各分野のまとめと復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院17年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	竹沢 潤
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	テーピングの基本や施行する部位の解剖学, 巻き方を習得する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、携帯電話の使用、居眠り
11. 教科書	スポーツテーピング、解剖学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	テーピングの基本	座学、自己紹介（オリエンテーション）
2	テーピングの基本	座学
3	テーピングの基本	前回の復習、座学
4	テーピングの基本	足関節の解剖学、巻き方
5	スポーツテーピング	実技
6	テーピングの基本	膝関節の解剖学、巻き方
7	スポーツテーピング	実技
8	スポーツテーピング	足関節、膝関節テーピング実技
9		前期中間試験
10	テーピングの基本	肘関節の解剖学、巻き方
11	スポーツテーピング	実技
12	テーピングの基本	肩関節の解剖学、巻き方
13	スポーツテーピング	実技
14	スポーツテーピング	実技（足関節）
15	スポーツテーピング	実技（膝関節）
16	スポーツテーピング	実技（肘関節）
17	スポーツテーピング	実技（肩関節）
18		前期期末試験
19	スポーツテーピング	実技（復習）
20	スポーツテーピング	実技（復習）

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院・病院7年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	村上 直樹
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	柔道整復師が行う、トレーナー業務を学ぶ
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯電話等電子機器の使用は厳禁
11. 教科書	なし
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	医歯薬出版 競技者と外傷予防 アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻・第5巻

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	自己紹介	オリエンテーション
2	トレーナー総論①	トレーナーの仕事と役割①
3	トレーナー総論②	トレーナーの仕事と役割②
4	外傷予防①	上肢 触診
5	外傷予防②	下肢 触診
6	外傷予防③	身体評価・タイトネス評価・アライメント評価①
7	外傷予防④	身体評価・タイトネス評価・アライメント評価②
8		中間試験範囲まとめ
9		前期中間試験
10	ストレッチ総論	ストレッチの概説・種類・方法①
11	ストレッチ実技	ストレッチの概説・種類・方法②
12	トレーニング総論	原理・原則・動的姿勢評価の実際
13	トレーニング実技①	基本的な姿勢とトレーニング①
14	トレーニング実技②	基本的な姿勢とトレーニング②
15	救急処置①	救急処置の総論
16	救急処置②	傷害別救急処置の方法
17		前期期末試験範囲復習
18		前期期末試験
19		期末試験解説
20	性別と運動	女性の発育過程とスポーツの影響

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院9年勤務、接骨院・介護施設6年）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努、橋本 沙織
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	競技者・高齢者の外傷予防および治療技術を習得する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	原則としてケーシー着用をすること。
11. 教科書	【競技者の外傷予防】南江堂、【柔道整復師と機能訓練指導】南江堂
12. 副読本	【柔道整復学・実技編】南江堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	競技者の外傷予防概論	競技者の外傷について（外傷発生状況および外傷治療の歴史と治療から予防への考え方の変化）
2		競技者の外傷発生要因について（内・外的要因）
3		外傷の予防対策
4	競技者の外傷予防のための実技	メディカルチェック（評価と測定）
5		外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①
6		外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②
7		外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際③（まとめ・復習含む）
8		中間試験
9		種目別の外傷予防とその実際①
10		種目別の外傷予防とその実際②
11	高齢者の外傷予防	介護（外傷）予防と生活機能の向上について
12		介護予防・日常生活支援総合事業について
13		ロコモティブシンドロームについて
14		高齢者自立支援の理解について
15		機能訓練指導員と機能訓練①
16		機能訓練指導員と機能訓練②
17		前期期末試験
18		機能訓練指導員と機能訓練③（まとめ・復習含む）
19		機能訓練で提供する運動と要点①
20		機能訓練で提供する運動と要点②

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院15年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	芦名 潤一
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	基本包帯法 包帯固定の修得
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語厳禁
11. 教科書	包帯固定学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		包帯および軟性材料の説明
2		巻軸包帯の説明 巻き方、巻き戻し方の基本
3		基本包帯法 環行帯 蛇行帯 螺旋帯の練習
4		折転帯の練習
5		折転帯の練習 小テスト
6		亀甲帯の練習
7		亀甲帯の練習 小テスト
8		前期中間試験および解説
9		肩 上行麦穂帯の練習
10		肩 上行麦穂帯の練習
11		肩 上行麦穂帯の練習 小テスト
12		肩 下行麦穂帯の練習
13		肩 下行麦穂帯の練習 小テスト
14		足関節の包帯固定の練習
15		足関節の包帯固定の練習
16		デゾー包帯の練習
17		前期期末試験
18		デゾー包帯の練習
19		ヴェルポー、デゾー包帯、ジュール包帯の練習
20		ヴェルポー、デゾー包帯、ジュール包帯の練習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院30年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	刈屋太郎
7. 授業形式	実技および講義
8. 授業の目標	臨床上重要な上肢骨折、脱臼、軟損の診察・整復法・固定法などを学ぶ。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	実技における心構え、服装、身だしなみ、確認・定期試験成績、受講中の態度
11. 教科書	私語は厳禁、手や爪の手入れ、髪の毛、無精髭などの身だしなみ
12. 副読本	「柔道整復理論（理論編）」「柔道整復理論（実技編）」
13. 推薦参考図書	「標準整形外科学」

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢骨折	鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
2		鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
3		上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
4		上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
5		上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
6		上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
7		総復習
8		前期中間試験および解説
9		前期中間試験の解説
10		コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
11		コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
12		手指部の骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
13		手指部の骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
14	上肢脱臼	肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
15		肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
16		総復習
17		前期期末試験
18		前期期末試験の復習
19		肘関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
20		肘関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院15年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科・1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	芦名 潤一
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	柔道整復臨床実習に対する診察から後療までの基礎知識及び応用実技の修得
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	遅刻、欠席、私語、居眠り、携帯電話操作厳禁。
11. 教科書	柔道整復学・実技編（南江堂）
12. 副読本	柔道整復学・理論編（南江堂）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	オリエンテーションおよび授業概要説明
2	1. 柔道整復施術	A. 柔道整復業務 B. 骨折の施術 C. 脱臼の施術 D. 軟部組織損傷の施術
3	2. 運動器系の施術	損傷の診察（観察および問診）①
4		損傷の診察（観察および問診）②
5		柔道整復施術 ①
6		柔道整復施術 ②
7		柔道整復施術 ③
8		腱反射の種類、評価
9		前期中間試験および解説
10		外傷における処置（三角巾と包帯の使用方法）
11		外傷における処置（冠名包帯法：デゾー包帯法）①
12		外傷における処置（冠名包帯法：デゾー包帯法）②
13		外傷における処置（冠名包帯法：ヴェルポー包帯法）
14		外傷における処置（冠名包帯法：ジュール包帯法）
15		上肢の徒手検査 ①
16		上肢の徒手検査 ②
17		テスト対策
18		前期期末試験
19		上肢の徒手検査 ③
20		上肢の徒手検査 ④

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	実技および講義
8. 授業の目標	柔道整復術の対象疾患に対する診察から治療までの理論及び実技の修得
9. 成績評価	出欠席状況、2022年度認定実技審査、期末試験、履修態度を含み総合評価する
10. 受講上の注意	遅刻、無断欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	【柔道整復学・理論編】南江堂、【柔道整復学・実技編】南江堂
12. 副読本	標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	上肢骨折の保存療法、柔道整復学上肢・体幹編、下肢・総論編（医歯薬出版）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	1. 肩鎖関節上方脱臼	オリエンテーション・診察および整復法①
2		診察および整復法②
3		テーピングによる固定法
4	2. 肩関節前方脱臼	診察および整復法①
5		診察および整復法②
6		包帯と三角巾による固定法（厚紙副子）
7	3. 肘関節後方脱臼	診察および整復法①
8		診察および整復法②
9		金属副子による固定法（クラーメル）
10	4. 肘内障	診察および整復法①
11	5. 肩腱板損傷	診察および徒手検査法（ペインフルアークサイン・ドロップアームサイン）
12	6. 上腕二頭筋長頭腱損傷	診察および徒手検査法（スピードテスト・ヤーガソンテスト）
13	7. 手第2指PIP関節背側脱臼	アルミ副子背側固定法
14	8. 大腿部損傷	ハムストリングス損傷の診察および徒手検査
15		大腿四頭筋打撲の診察および徒手検査
16	9. 膝関節部損傷	膝関節側副靱帯損傷の診察および徒手検査
17		膝関節内側側副靱帯の固定（Xサポートテープ）
18		前期末試験
19		膝関節十字靱帯損傷の診察および徒手検査
20		膝関節半月板損傷の診察および徒手検査

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	金子 和央
7. 授業形式	実技授業
8. 授業の目標	主要な傷害に対する基礎的な診察、診療技術を習得する。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	余計な私語は慎む事。許可なく電子機器の操作をしない事。
11. 教科書	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	①鎖骨定型的骨折	診察および整復法①
2		診察および整復法②
3		固定法（リング固定又は8字帯若しくはSayreテープ固定）
4	②上腕骨外科頸外転型骨折	診察および整復法①
5		診察および整復法②
6	③上腕骨骨幹部骨折	固定法（ミッテルドルフ三角副子固定法）
7	④コレス骨折	診察および整復法①
8		診察および整復法②
9		固定法（クラメル副子と局所副子・三角巾固定）
10	⑤第5中手骨頸部骨折	固定法（アルミ副子掌側固定）
11	復習	①～⑤復習
12	⑥肋骨骨折	固定法（さらしと厚紙副子固定）
13	⑦下腿骨骨幹部骨折	固定法（クラメル副子固定）
14	⑧下腿三頭筋損傷	診察および検査法
15	⑨アキレス腱断裂	固定法（クラメル副子固定）
16	⑩足関節外側靱帯損傷	診察および整復法
17		試験の説明および復習
18	期末試験	
19	⑩足関節外側靱帯損傷	固定法（局所副子固定）
20		固定法（バスケットウィーブ固定、フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定）

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	画像評価実技Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木孝行
7. 授業形式	超音波観察装置、PC、PCプロジェクターを適宜使用。パワーポイントのスライドにより講義を進め、超音波観察装置を使用して実技を行う。資料配付により、板書で伝え切れない部分を補うほか、重要事項を要約する。
8. 授業の目標	断層解剖学（筋骨格）における基礎知識の習得とエコー使用した正常画像の抽出を目指す。
9. 成績評価	出席状況・受講態度・中間テスト・期末テストなどを含み総合評価する。
10. 受講上の注意	私語厳禁・分からない事はその時に聞くこと。 実技を行う際には、ケーシー又はジャージを着用し実習を行える服装で受講すること。
11. 教科書	運動器の超音波（南山堂）
12. 副読本	解剖学（南江堂）・ネッター解剖学アトラス（南江堂）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	超音波の基礎知識	超音波画像診断の必要性について
2	超音波の基礎知識	超音波画像診断装置の使い方①
3	超音波の基礎知識	超音波画像診断装置の使い方②
4	超音波の基礎知識	生体内組織の観察①（皮膚）
5	超音波の基礎知識	生体内組織の観察②（皮下組織）
6	超音波の基礎知識	生体内組織の観察③（骨）
7	超音波の基礎知識	生体内組織の観察④（筋膜）
8	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑤（筋肉）
9		前期中間試験
10	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑥（腱・靱帯）
11	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑦（血管）
12	超音波の基礎知識	生体内組織の観察⑧（組織境界部など）
13	上肢の観察	肩関節
14	上肢の観察	肘関節
15	下肢の観察	膝関節
16	下肢の観察	足関節
17	総合観察	前期のまとめ
18		前期期末試験
19	自由観察	各部位の相対的観察
20	応用実技	症例検討など

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	画像評価実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	各種画像評価と各疾患におけるエコー評価実技を習得させる。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	積極的に受講すること。教室、実技室双方で講義を行うことがあるので、当番は事前に確認してください。実技はケーシー着用。下肢実技の場合はハーフパンツを持参すること。 また当番の班は授業前に超音波機器とタオル、備品、パソコン・プロジェクターのセッティングを完了させておくこと。
11. 教科書	運動器の超音波、柔道整復学・理論編
12. 副読本	標準整形外科学 医学書院
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢の画像評価実技1	手指・手関節周辺疾患のエコー評価1
2	上肢の画像評価実技2	手指・手関節周辺疾患のエコー評価2
3	上肢の画像評価実技3	手指・手関節周辺疾患のエコー評価3
4	上肢の画像評価実技4	肘関節周辺疾患のエコー評価1
5	上肢の画像評価実技5	肘関節周辺疾患のエコー評価2
6	上肢の画像評価実技6	肩関節周辺疾患のエコー評価1
7	上肢の画像評価実技7	肩関節周辺疾患のエコー評価2
8	上肢の画像評価実技8	肩関節周辺疾患のエコー評価3
9		中間試験
10	下肢の画像評価実技1	足趾・足関節周辺疾患のエコー評価1
11	下肢の画像評価実技2	足趾・足関節周辺疾患のエコー評価2
12	下肢の画像評価実技3	足趾・足関節周辺疾患のエコー評価3
13	下肢の画像評価実技4	膝関節周辺・大腿部疾患のエコー評価1
14	下肢の画像評価実技5	膝関節周辺・大腿部疾患のエコー評価2
15	下肢の画像評価実技6	膝関節周辺・大腿部疾患のエコー評価3
16	体幹の画像評価実技	肋骨骨折、腰椎分離症のエコー評価
17		総復習とまとめ
18		期末試験
19	各種画像検査 1	各種画像検査法の特徴 1
20	各種画像検査 2	各種画像検査法の特徴 2

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務、接骨院3年勤務、接骨院3年勤務、接骨院8年勤務、接骨院6年勤務、接骨院3年勤務、接骨院6年勤務、接骨院9年勤務、接骨院・介護施設6年）	
2. 科目分類	専門科目	
3. 対象学科	柔整科1部	
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年	
5. 単位数	1単位	
6. 担当講師	伊東秀高、金子和央、後藤陽正、齊藤慎吾、佐藤詩栞、志田龍太、鈴木英明、田村努、橋本沙織	
7. 授業形式	講義および実技形式	
8. 授業の目標	接骨院実習を通して、実際の業務内容を学ぶ また、前期に履修した内容も踏まえ実際に経験しながら学ぶ	
9. 成績評価	毎回の評価シートをもとに評価する。	
10. 受講上の注意	ケーシー着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認	
11. 持参物	柔道整復学理論編、保険証（コピー可）	
12. 副読本		
13. 推薦参考図書		
14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	実習の意義、注意事項の確認、一連の流れの説明
2	第二附属接骨院実習	カルテについて
3	第二附属接骨院実習	カルテについて
4	第二附属接骨院実習	電気療法について
5	第二附属接骨院実習	電気療法について
6	診療実習	臨床演習と考査
7	診療実習	臨床演習と考査
8	診療実習	臨床演習と考査
9	診療実習	臨床演習と考査
10	診療実習	臨床演習と考査
11	診療実習	臨床演習と考査
12	評価	総復習

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務、接骨院3年勤務、接骨院3年勤務、接骨院3年勤務、接骨院9年勤務、接骨院・介護施設6年、介護施設6年）	
2. 科目分類	専門科目	
3. 対象学科	柔整科 1 部	
4. 対象学年・対象学期	第2 学年・通年	
5. 単位数	1 単位	
6. 担当講師	伊東秀高、金子和央、後藤陽正、志田龍太、田村努、橋本沙織、布施健太郎	
7. 授業形式	講義および実技形式	
8. 授業の目標	前期までに履修した内容をもとに実践的に実習経験を学ぶ。 接骨院実習を通して、実際の業務内容を学ぶ	
9. 成績評価	ポートフォリオ、レポートにて評価する。	
10. 受講上の注意	ケーシー着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認	
11. 持参物	柔道整復学理論編、保険証（コピー可）	
12. 副読本		
13. 推薦参考図書		
14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	実習の意義、注意事項の確認、一連の流れの説明
2	第1 附属接骨院実習	接骨院業務見学実習
3	第1 附属接骨院実習	接骨院業務見学実習
4	第1 附属接骨院実習	接骨院業務見学実習
5	第1 附属接骨院実習	接骨院業務見学実習
6	第1 附属接骨院実習	接骨院業務見学実習
7	臨床考察	臨床演習と考査
8	臨床考察	臨床演習と考査
9	臨床考察	臨床演習と考査
10	臨床考察	臨床演習と考査
11	臨床考察	臨床演習と考査
12	評価	総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務、接骨院3年勤務、接骨院9年勤務、接骨院3年勤務、接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	志田龍太、後藤陽正、田村努、金子和央、伊東秀高
7. 授業形式	実習形式
8. 授業の目標	医療人としての自覚を育て、自ら考え自ら行動できる人材を育てる。 実習を通じて、診察、診療業務を学ぶ。
9. 成績評価	出欠席、実習態度、その他評価項目に基づき評価する。
10. 受講上の注意	遅刻・欠席厳禁、私語、携帯操作厳禁、服装及び準備物を事前に確認し準備する事。 ケーシー、院内履きを忘れた場合、原則実習不可とする。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
4月		オリエンテーション 受付業務 診療室のメンテナンス ロールプレイ 診察・検査と処置 再来患者の評価と後療法 通院指導
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	職業教育Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院9年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	田村 努他
7. 授業形式	座学および各種活動
8. 授業の目標	医療人としての資質向上と医療従事者として重要な要素となる他者との連携を学ぶ
9. 成績評価	出席状況、受講態度、履修状況、試験成績などを考慮し評価する。
10. 受講上の注意	積極的に活動に参加し、関係性の構築を図る。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		新入生研修会
2		新入生研修会
3		新入生研修会
4		新入生研修会
5		校内学術大会
6		校内学術大会
7		職業講話
8		職業講話

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	職業教育Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	後藤 陽正、天貝 裕地、その他
7. 授業形式	座学および実技
8. 授業の目標	柔道整復の業を理解し、臨床研究ならびに各種実習を通し、人の体の仕組みを理解し、柔道整復師に必要な知識を習得する。
9. 成績評価	出席状況、受講態度などを考慮し評価する。
10. 受講上の注意	積極的に授業に参加し知識の向上を図る。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	概要
2	臨床研究	学術論文大会
3	臨床研究	学術論文大会
4	臨床研究	論文研究作成
5	臨床研究	解剖見学実習
6	臨床研究	解剖見学実習
7	ウィンタースポーツ実習	ウィンタースポーツ実習
8	ウィンタースポーツ実習	ウィンタースポーツ実習

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床研修※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	志田 龍太 他
7. 授業形式	座学および実技
8. 授業の目標	人の体の仕組みを理解し、柔道整復術との関連とそれに必要な知識を体験・体感する。
9. 成績評価	出席状況、受講態度、履修状況、試験成績などを考慮し評価する。
10. 受講上の注意	積極的に授業に参加し知識の向上を図る。
11. 教科書	柔整学理論編、解剖学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	人体解剖学	胸背部の骨・筋・血管・神経
2	人体解剖学	上肢の骨・筋・血管・神経
3	人体解剖学	下肢の骨・筋・血管・神経
4	筋膜	筋膜リリース・メソッド
5	筋膜	筋膜リリース・メソッド
6	筋膜	筋膜リリース・メソッド
7	柔道整復術	整復術と固定術
8	柔道整復術	整復術と固定術
9	柔道整復術	整復術と固定術
10	柔道整復術	整復術と固定術